2026年丙午、事始め

新年のスタートを皆さんはどのように過ごしましたか。ここに私の生活の一部を紹介しておきます。

■ 12 月 31 日（水） 横浜線→小田急江ノ島線→江島電鉄にて腰越にある HOTEL　AO Kamakura まで移動。3 家族 9 人で宿泊、賑やかに年越し。もは蕎麦屋だったという HOTEL で、しかも江ノ島海岸沿い。夕方には海岸に出て、夕陽を眺める。1 階の喫茶兼用のレストランでは夜 10:30 からは「年越し蕎麦」も供された。

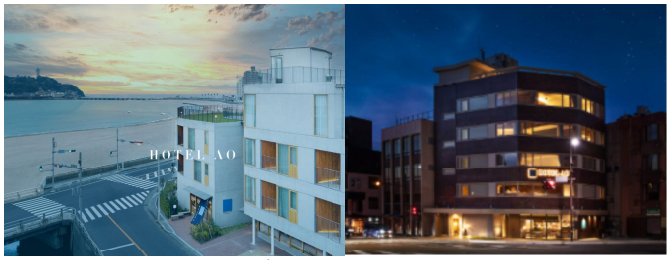
■ 1 月 1 日（木） 江ノ島海岸東浜に出て、初日の出を遙拝。今年度の『さらなる飛躍』を願うが、余りの人の多さに圧倒される。HOTEL に戻って屋上テラスに行き、温かい「出汁」スープをいただく。その後、腰越（こしごえ）漁港の脇にある小動（こゆるぎ）神社にて初詣。皆さんの健勝とさらなる発展を祈願。午後には皆は車、私は片瀬江ノ島より小田急江ノ島線を利用して帰宅。再度、我が家で長男一家 4 人を出迎え、そのまま宿泊。祝膳は高島屋から御取り寄せ。長女の家族 3 人は婿の実家のある戸塚へ。

■ 1 月 2 日（金） 昼過ぎに長男一家は帰宅の途へ。夜は自宅にて学校の昇降口に飾る「馬の点描画」を綿棒を使って制作。

■ 1 月 3 日（土） 中央大学 10 区（23.0km）最終ランナーに昨年 7 区を走った吉中 祐太選手が出場変更になったことを知る。彼は、我が母校（山口県立豊浦（とよら）高校）陸上競技部の後輩で応援に品川まで出かけた。しかし、結果は 1 時間 10 分 33 秒（区間 15 位）と振るわず、中大は國學院大学、順天堂大学、早稲田大学に抜かれて総合第 5 位に沈む。

■ 1 月 4 日（日） 午前中より丸の内の旧明治生命館（重要文化財）、曜変天目茶碗（ようへんてんもく）で有名な静嘉堂（せいかどう）文庫美術館にて『たたかう仏像』展に出かける。重要文化財《十二神将立像》（浄瑠璃寺旧蔵）をほかの作品群を観賞。12 という数字に絡め干支に因んで、外敵や災厄から人々を守る守護的役割が期待され、衆生の救済、個人の内面の「煩悩」とたたかう存在として信仰されたという。

■ 1 月 4 日の午後は、12 月初旬に出かけたエジプト旅行の思い出を胸に、築 63 年になる上野の東京文化会館にて 16：00 より 3 時間半に及ぶウクライナ国立歌劇団『アイーダ』を観賞。バックステージツアーにも参加（私学共済のイベント抽選に当選したお陰）。



HOTEL AO Kamakuraの概観　HPより

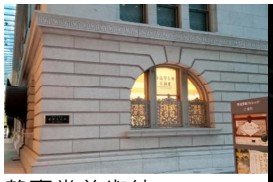
2025年12月31日の夕日　2026年元旦（江ノ島東浜）

小動（こゆるぎ）神社

JR品川駅改札に掲げられた箱根駅伝たすき型装飾

10区を走る吉中選手

海峡をのぞむ山口県立豊浦高校HPより


静嘉堂美術館

薬師如来の12の守護神のうちの1体（午神像）

曜変天目茶碗

HPより

夜は浅草に移動し、雷門通りに面した The GATE HOTEL 雷門に宿泊。ロビー、館内の家具や照明デザインは内田 繁の作品。また、ホテル屋上階には宿泊客専用のバーとオープンテラスがあり、夜景やスカイツリーを臨める。ここで杯を傾けて楽しんだ。13 階のレストランにはダンボールアートで著名な日比野 克彦(東京藝術大学学長)の作品が飾られている(note 1)。

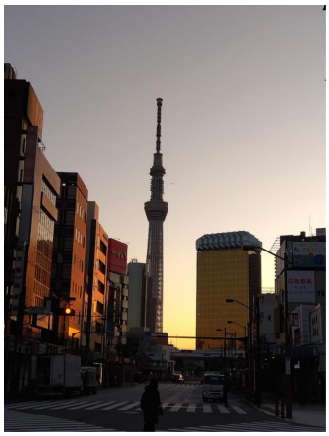
■ 1 月 5 日(月) 早朝 6:30 雷門より仲見世通りを抜けて浅草寺に参拝。36 期受験生の合格を祈願。「おみくじ」を拝受。朝は外国人観光客と商店の開店準備を急ぐ人々や寺社清掃する人などしか見かけることなく、「こんなに静か！」なのかと驚く。ダイヤモンド会員の優遇チケットで昼までのんびりと部屋やテラスで過ごす。

■ 1 月 5 日(火)午後は、都営線－東武押上線の直通電車で葛飾区青砥(あおと)駅へ。午年の今年、午(馬)に纏わる神社としてテレビでも紹介されていた五方山熊野神社へ詣でることに(note2)。ここは陰陽師:安倍 晴明ゆかりの神社としても知られ、寺の敷地は五角形からなり、祖父－父－本人とも競馬関係者という宮司が務める。本殿入り口には「茅の輪くぐり(輪くぐり)」があり、作法に従って罪祓いを行った(note3)。境内には三頭のポニーが飼われており、参詣者を喜ばせていた。帰りは都営新宿線を利用して新宿伊勢丹に立ち寄り、京都市上七軒(かみしちけん)に店舗を持つ有職菓子御調進所:老松の「花びら餅」ほかを買い求めて帰宅。

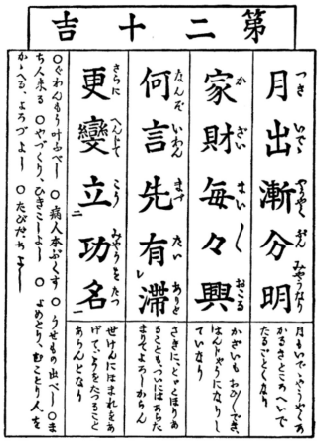
■ 1 月 7 日(水)今日は 3 学期に向けての教職員打合せ。専任･非常勤の教職員 70 余名がそろって、3 学期について学校行事や授業を中心に、各分掌や係から連絡と報告を受け、情報を共有した。私からは、新しい年の始まりと年度の総括へ向け、「魅力ある授業づくり」のためのさらなる工夫と努力を先生方にお願いした。特に、SNS や AI の発達した現在社会において、大切なことは「言語力」だという話をした。

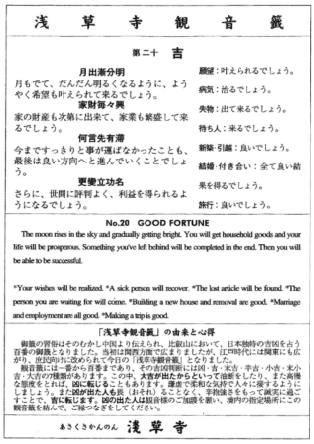
さて、朝は前日にスーパーで買い求めた「七草」をもとに粥にして食した。1 月 7 日は、年に 5 回ある「五節句」のうちで最初の節句。「人日(じんじつ)の節句」とされる(note4)。唐ではこの日を「七種菜羹(さいのかん)」と呼ばれ、七種類の野菜が入った汁を食べて無病息災を願ったとされる。江戸時代には「春の七草」として庶民にも広まり、無病息災、長寿健康を願うようになったという。

The GATE Hotel 雷門 HPより
上左: レストランからの夜景
上右: 屋上オープンテラス
左: 内田 繁デザインのロビー



ほとんど人のない朝の雷門通りと仲見世通り





浅草寺でのおみくじは「吉」だった！

五方山熊野神社とポニー

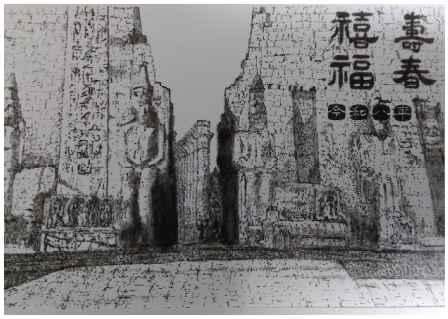
「茅の輪くぐり」の作法

朝食後には、抹茶と共に縁起を担いで「花びら餅」をいただく。元来、“お正月”はお盆と同じく先祖の霊や祖先神を迎える神事でもあり、その年の福徳を司る穀物の歳神(歳徳神)を迎え入れる儀礼が行われる。それに合わせて菓子が作られるが、その代表的な菓子が「花びら餅」である。丸くのした餅に小豆の渋で赤に染めた菱餅を置き、白味噌とゴボウの甘煮をのせて半円状に折り畳んだもので、「菱 葩(はなびら)」という宮中の正月食に由来するという。中に挟むゴボウは「押鮎(おしあゆ)」の見立てとされる(note5)。

今年も楽しくも忙しい年が始まる。

【追記】

今年も忙しい年明けとなった。部屋の片付けは相変わらず経過中。12 月初旬に休みをいただいて 50 年ぶりに出かけたエジプト旅行については、別途報告予定である。



12月
ルクソールにて

note

1.「商品建築」2013 年 8 月号, Vol.58-8. pp.63-71.
2. 他にも馬にまつわる寺社としては台東区稲荷町にある矢先稲荷神社も有名。本堂天井に飾られた 100 枚の絵が知られる。
3.「茅の輪くぐり」は、本来 6 月 30 日と 12 月 31 日に行うもので、前半の罪や穢れ祓いを、また後　半の無病息災を願うもの。
4. 「五節句」とは、次の 5 つをいう。
◆ 1 月 7 日（人日）　◆ 3 月 3 日（上巳）
◆ 5 月 5 日（端午）　◆ 7 月 7 日（七夕）
◆ 9 月 9 日（重陽）
5. 「押鮎」とは、鮎を塩漬けにして重石で保存したもの。平安時代に新年の「歯固めの儀式」で使われた縁起物。

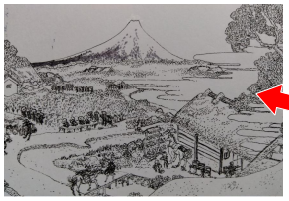
ref. この年末年始に読んだ本

1）酒井 信(2025)『松本清張の昭和』講談社現代新書, 262 ページ.
2）内田 洋子(2021)『モンテレッジォ　小さな村の旅する本屋の物語』文春文書, 302 ページ.
3）馬場 匡浩(2021)『ファラオ　古代エジプト王権の形成』ちくま新書, 304 ページ.
4）白川 尚史（2025)『ファラオの密室』宝島社文庫, 352 ページ.
5）犬童 千絵（2015)『青いファラオの瞳 男装の女王の物語』1 巻 KADOKAWA, 200 ページ（漫画）.

七草粥

和菓子「午の春」
花びら餅

京都の老松(本店)HPより



北斎風に描いた水墨画擬き

我が家の正月用飾り

早朝の月と浅草

昇降口に飾った午の絵